独立行政法人　日本学術振興会　先端研究拠点事業
「骨・軟骨疾患の先端的分子病態生理学研究の国際的拠点形成」
（東京医科歯科大学難治疾患研究所　平成１６年度採用）

第１回ＡＢＪＳ国際ワークショップ「骨と関節の先端的疾患分子医科学」
井上　博允　監事　挨拶

日　時　平成１６年6月２２日（火）　９：００～
場　所　東京ガーデンパレス

第１回ＡＢＪＳ国際ワークショップ「骨と関節の先端的疾患分子医科学」の開催にあたり、日本学術振興会を代表してお祝いの言葉を申し上げます。

日本学術振興会は、２００３年１０月に独立行政法人となり、ファンディングエージェンシーとして新しいスタートを切りました。本日のワークショップ開催を含む「先端研究拠点事業」は、本会の法人化と時を同じくして開始された新しい事業であり、今後の本会の国際事業における旗艦事業として位置づけられております。

本事業は、先端的な学問領域において、日本と複数の先進諸国の中核的な研究拠点機関間のネットワークを形成し、従来の二国間交流の枠を越えた多国間交流として、より一層の国際共同研究の推進を図るとともに、将来を担う次世代の若手研究者間の交流促進を目的としたものです。

具体的には、各拠点機関コーチェアのリーダーシップのもと、「共同研究」、「セミナー等学術会合の開催」、「研究者交流」等を組み合わせた交流を実施していただきます。

２００３年秋に、この新しい概念をもった事業を日本の各研究機関に対して募集したところ、本会の予想をはるかに超えるご反響をいただき、高い競争率の下、厳正な審査の結果、２００４年２月開始分５件、２００４年４月開始分７件を採用させていただきました。

東京医科歯科大学難治疾患研究所の野田政樹教授を中心としたプロジェクト「骨・軟骨疾患の先端的分子病態生理学研究の国際的拠点形成」は、採用率が１０％を下回るという非常に厳しい中、採用された大変優秀なものであります。また、東京医科歯科大学難治疾患研究所は、骨・軟骨疾患研究において欧米諸国と肩を並べている、まさに、日本、世界の先端を走っている機関であります。

現在、先進諸国における高齢化社会に伴う医療・健康問題は、本プロジェクトの共同国であるアメリカ、カナダ、オーストリア、日本全ての国に共通かつ重要な課題であります。また、近年、日本においては、骨粗鬆症が高齢者だけなく若年層にも広がっていることなどからも、非常に身近な問題として一般の国民の皆様の関心も高まっております。このプロジェクトの期待される成果である、骨粗鬆症の発症メカニズム解明や予防法・治療法の開発は、非常に有益なものであると考えます。

この点から、先端研究拠点事業としては「学術の国際交流の促進」が第一の目的でありますが、広い意味での我が国における「学術の振興」及び「社会貢献」に寄与できるプロジェクトであると、本会としても大いに期待しているところであります。

今回のワークショップをきっかけに、「骨」疾患治療における国際協力がより一層進むとともに、この２年間で、東京医科歯科大学難治研究所が、当該研究領域の世界の背骨として更に大きく発展されることを期待します。